

情報サービス各社が、コロナ禍で重要性が増したデジタル変革(DX)支援事業に注力している。一方、IT人材を積極的に採用するユーザー企業も増える中、情報サービス業界がもたらす価値・あるべき姿について、情報サービス産業協会(JISA)の原孝会長に聞いた。

□ ■

—情報サービス業界の変化をどう見ますか。

「会員制交流サイト(SNS)の普及で、情報の受け手が発信者になったように、顧客企業が自らIT技術を活用できるようになったことが、ここ数年間の大きな変化だ。(短期で試作と改良を繰り返す)アジャイル、かいていて良いのか。(開発と運用を連携する)これがJISAが抱える課題だ」

「開発と運用を連携する」これがJISAが抱える課題だ。絶対必要な技術革新が顧客からの要望を当然必須になる。(幼)受けてシステム構築をい頃からインターネット、受けて身の姿勢トに接してきた)デジタルから、提案型の体制にタルネイティブもたく変わろうとする企業が増えている中で、情報サービス産業があらを「それも受け身の姿

「ITアスリート」育成

人づくり軸 業界変革加速



情報サービス産業協会会長

原孝氏

返す)アジャイル、かいていて良いのか。(開発と運用を連携する)これがJISAが抱える課題だ」

絶対必要な技術革新が顧客からの要望を当然必須になる。(幼)受けてシステム構築をい頃からインターネット、受けて身の姿勢トに接してきた)デジタルから、提案型の体制にタルネイティブもたく変わろうとする企業が増えている中で、情報サービス産業があらを「それも受け身の姿

勢に感じる。エンジンアを抱える企業が増える中、今までの顧客があると思っはいけない。DXで、どう顧客の価値を上げるか。業界そのものも顧客の変化に合わせて変化しなければならぬ」

「そのために打ち出したのが、デジタル技術で『人が輝く社会』を創ることを宣言した『JISA2030』。今日、明日では実現できない人材・ビジネス革新を10年かけて実現する」

—19年の会長就任以

DXで顧客価値向上カギ

来、人材育成に注力しています。

「人作りが全ての基成や、デジタル化社会盤。エンジニア全員がの進展に適した人材へプロ意識を持った『ア』の転換支援などの育成スリート』である必要 プロジェクトを進めがある。未来のITアる」

スリート育成のため、JISA版『ナシヨナルトレーニングセンター』構想を打ち出した。産学官連携して、トップエンジニアの育成

記者の目

具体策の実行力に期待

プロ意識を持って技術力自身に付け、自分のやりたいことを仕事を通じて実現することが、結果として顧客への価値提供につながる」と説く原氏。コロナ禍で各業界がビジネスの変革を進める中、人材育成を基盤として情報サービス業界の変革を進める構えだ。

「JISA2030」は約10年間の長期的取り組みになるが、業界全体の体制や意識の変革につながる具体策の早期実行に期待したい。

(狐塚真子)